

製品名: PIG-X ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16144**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	26kDa

抗原情報

遺伝子名	PIGX
別名	PIGX; Phosphatidylinositol-glycan biosynthesis class X protein; PIG-X
遺伝子 ID	54965.0
SwissProt ID	Q8TBF5
免疫原	抗血清はヒト PIGX 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 183-232

背景

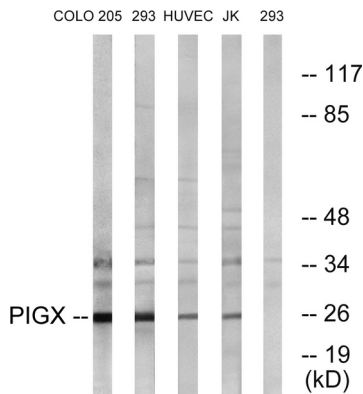
この遺伝子は、小胞体 (ER) の I 型膜貫通タンパク質をコードしています。このタンパク質は、GPI アンカー生合成において GPI アンカー前駆体の 4 つのマンノースのうち最初のマンノースを転移するグリコシルホスファチジルイノシトールマンノシルトランスフェ

ラーゼIの必須成分です。ラットを用いた研究では、このタンパク質は AUG 以外の翻訳開始部位から翻訳されることが示唆されています。選択的スプライシングにより、複数の転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2009 年 10 月],機能: GPI アンカー生成において GPI アンカー前駆体の 4 つのマンノースのうち最初のマンノースを転移するグリコシルホスファチジルイノシトールマンノシルトランスフェラーゼ I の必須成分。おそらくマンノシルトランスフェラーゼ PIGM を安定化させることによって作用します。 , 経路: 糖脂質生成;グリコシルホスファチジルイノシトールアンカー生成。 ,PTM:N-グリコシル化。 ,配列注意:異常な開始因子。開始メチオニンは非標準的な CTG ロイシンコドンによってコードされている。 ,類似性:PIGX ファミリーに属する。 ,サブユニット:PIGM と相互作用する。 ,

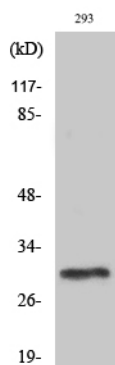
研究分野

グリコシルホスファチジルイノシトール (GPI) アンカー生成;

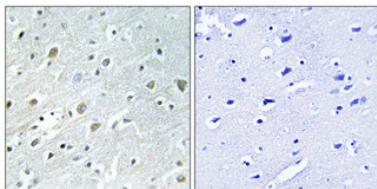
画像データ



PIGX 抗体を用いた 293 細胞、COLO 細胞、HUVEC 細胞、および Jurkat 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



PIG-X ポリクローナル抗体を 1: 1000 に希釈して様々な細胞をウェスタンブロット分析した。



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。